



平成 21 年 8 月 5 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 ア ウ ト ソ ー シ ン グ
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 丸 岡 陽 太
(コード番号: 2427)

問 合 せ 先
役 職・氏 名 取 締 役 管 理 本 部 長 和 泉 康 一
電 話 054-281-4888 (代表)

特別損失の計上および繰延税金資産の計上ならびに 第 2 四半期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 21 年 12 月期第 2 四半期決算におきまして、特別損失の計上および繰延税金資産の計上を行うとともに、平成 21 年 5 月 26 日付で発表いたしました平成 21 年 12 月期第 2 四半期業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 特別損失の発生及びその内容

当社は、生産アウトソーシング事業の収益拡大を図るため、M&A も戦略のひとつとして考えており、株式会社モルティ及び株式会社ヤストモを子会社化しております。

株式会社モルティは、当社グループにおいて広島地区での事業展開を強化するために平成 18 年 5 月に子会社化いたしました。同社は昨年後半からの派遣切りの影響から、安定成長していくため、既存顧客の請負化に注力してまいりました。このため、同社は特定顧客への依存度が高く、底打ち感が出てきたものの、本格的に収益が回復するには時間を要すると判断し、のれんの大半を一括処理するものであります。

また、株式会社ヤストモは、これまで当社グループがカバーしてこなかった建設機械メーカーへの事業展開を強化すべく、平成 20 年 8 月に子会社化いたしました。しかし、同社も特定顧客への依存度が高く、底打ち感が出てきたものの、やや生産動向が不安定であり、同社の今後の収益回復は平成 22 年以降と予想されるため、のれんを一括処理するものであります。

この結果、計上しているのれんに対し、株式会社モルティに対し減損損失 59 百万円、株式会社ヤストモに対し減損損失 144 百万円を計上いたします。

2. 繰延税金資産の計上について

当期の業績見通し等を踏まえ今後の繰延税金資産の回収可能性について慎重に検討した結果、繰延税金資産を計上することとし、法人税等調整額として△101 百万円を計上いたします。

3. 業績予想の修正

(1) 修正の内容

(金額の単位：百万円)

平成21年12月期第2四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正(平成21年1月1日～平成21年6月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
前回予想(A)	7,600	△500	△450	△431	△2,788.50
今回修正(B)	7,733	△375	△307	△401	△2,940.53
増減額(B-A)	133	125	143	30	—
増減率(%)	1.8	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成20年12月期第2四半期累計)	12,195	528	552	311	2,626.58

平成21年12月期通期連結業績予想(平成21年1月1日～平成21年12月31日)につきましては、平成21年2月16日発表の予想に変更はありません。

平成21年12月期第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正(平成21年1月1日～平成21年6月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
前回予想(A)	6,500	△350	△320	△327	△2,110.81
今回修正(B)	6,611	△226	△174	△97	△713.62
増減額(B-A)	111	124	146	230	—
増減率(%)	1.7	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成20年12月期第2四半期累計)	10,412	468	468	270	2,283.09

平成21年12月期通期個別業績予想(平成21年1月1日～平成21年12月31日)につきましては、平成21年2月16日発表の予想に変更はありません。

(2) 修正の理由

当社グループでは、顧客メーカーの生産立ち上がりが遅れた影響を受け、平成21年5月26日付で第2四半期連結累計期間連結業績予想および第2四半期累計期間個別業績予想の修正を行いましたが、その後、政府による景気対策の効果等により、国内大手メーカーの生産は前回修正した時点の予想を上回る速さで回復し始めております。このため、生産の回復にあわせてフレキシブルな対応が可能な生産アウトソーシングの活用ニーズは非常に高まっております。

一方、昨年来の社会問題でもあります派遣切りやワーキングプア等の影響により、これまでの生産アウトソーシングの活用手段として主流であった製造派遣に対する規制については不透明な状況にあります。

このような環境変化に対応し、当社グループにおける生産アウトソーシング事業では、今後の予想される政策にも対応する取り組みを行っており、政策の動向に左右されずに、安定してサービスを提供していく業者として、多くのメーカーから評価を頂いております。また、当社が行ったメーカーとの資本提携の取り組みにより、同業他社にアドバンテージをとって多く受注しております。このため、前回修正発表しました第2四半期累計期間の業績において、売上高の予想を上回る見通しであります。

また、利益面につきましては、子会社の株式会社ORJでは、労務管理等の管理業務の一括受託する事業を展開しておりますが、顧客メーカーが昨今の大不況において生産に係る人員を極限まで削減していたため、急な増産に対しメーカーが直接雇用した際に管理業務の負担が急増したため、利益率が高い同事業の受注が増加し、利益に大きく寄与いたしました。

さらに、生産アウトソーシング事業では、顧客メーカーの減産の影響を大きく受ける中にお

いて、売上原価率の改善や販売費及び一般管理費の削減に取組んだ結果、この生産回復の局面に合わせ、前回修正しました予想以上の利益率を伴って業績を改善いたしました。この他、契約の終了に伴って発生を見込んでいた寮の原状回復費用や有給休暇取得費用といった一時的な費用も、一部顧客メーカーにおいて生産回復が早まったため、契約打ち切りの中止等により当初の見込み額よりも下回ったことから、営業利益、経常利益につきましては前回修正しました予想よりも改善いたしました。

また、上記「1. 特別損失の計上について」及び「2. 繰延税金資産の計上について」で記載のとおり、のれんの減損、固定資産の減損及び繰延税金資産の計上により、四半期純利益を計上いたします。

これらの結果、第2四半期累計期間の連結業績は、平成21年5月26日に発表しました予想に比べ、売上高が133百万円増の7,733百万円、営業利益が125百万円増の△375百万円、経常利益が143百万円増の△307百万円、四半期純利益が30百万円増の△401百万円、一株当たり四半期純利益が△2,940円53銭と修正いたしました。

通期の連結業績は、平成21年2月16日に発表しました予想から変更はありません。

第2四半期累計期間の個別業績は、連結業績予想と同様の修正理由により、平成21年5月26日に発表しました予想に比べ、売上高が111百万円増の6,611百万円、営業利益が124百万円増の△226百万円、経常利益が146百万円増の△174百万円、四半期純利益が230百万円増の△97百万円、一株当たり四半期純利益が△713円62銭と修正いたしました。

通期の個別業績は、平成21年2月16日に発表しました予想から変更はありません。

以上